日本大学ウィンドサーフィン部 安全対策

はじめに

昨年度、琵琶湖で発生した学生の水難事故を受け、今後日本大学では、事故を起こさない・起きた場合に備えること重視して活動します。そこで、現状の取り組みを見直し、情報を付け加え、「今後の取り組み」として安全対策を補強しました。

現状の取り組み

1 正規練習の際のスマートフォン、笛、レスキューシートの所持。
2 ライフジャケットの着用。
3 正規練習の際のレスキューボート使用、及び準備。
4 平日練習の際、全部員に対しての出艇、帰着に関する連絡。

今後の取り組み

〇事故を起こさないために

A. 道具の整備の徹底
日々の練習で道具が摩耗することを再認知させ、定期的に道具の点検をするように呼びかけます。特にマストやジョイントは破損すると航行不能につながる重要なマテリアルでありながら、高頻度で破損する様子が見受けられます。そこで対策として、マスプロの装着、予備のジョイントを装備しての出艇を呼びかけます。マスプロに関して今までは、意欲的な部員のみが個人的に購入し、保護しておりましたが、部費で購入し、部員全員で道具が壊れないように努めます。

B. 定期的なサポート船整備
現状日本大学は、オクダスタイルサーフィングと艇庫契約をしていて、船をお借りしています。今年度からは、毎週の練習で船を出すようにし、不測の事態に備えます。そのために船の壊れた部品や壊れそうな部分に関しては部費を使い整備し、緊急事いつでも船を出せる様に努めます。また、メンテナンス方法をほとんどの部員が熟知している状態を整えるようにします。

C. 平日練習の際の出艇確認
現状の平日出艇の際の連絡は引き続き欠かさずに行い、追加で艇庫への出艇の連絡を義務

付けます。今までは、一緒に出艇するメンバー、時間、風速計の写真を添付したものを全部員に連絡していました。今後も継続し、艇庫にも同じ連絡をすることによって関係者全員が海上にいる現状を把握出来る様にします。

D. 練習コンディションの設定

ｱ　学連が定義する指針に基づき、最大瞬間風速 $12m/s$を超えたら、練習を中止する。

ｲ　雪が降る際や、気温が著しく低い際は練習を行わない。

ｳ　雨などのコンディション不良の際は、有識者からの指示を仰ぎ、学生だけで練習の判断をしない。

ｴ　オフショア Ave8 m/sを超える際は 1人で出艇を禁止する。

ｵ　雷が 2 回もしくは近くで鳴った場合は即帰着をする。

E.海上での行動

複数人で練習する際は、当日練習を仕切る人が全部員の位置を把握できるように努める。また、はぐれてしまった場合は全体グループに自分の状況と位置を共有する。

F.健康状態の把握と服装

日ごろから自身の健康状態を把握しておき、体調がすぐれない場合は無理せずに出艇は控えるようにする。また、体調と合わせて服装にも気を付けるようにする。特に、カッコよさを求めたり、日焼けを気にしたりして、気温と水温にそぐわない服装で出艇しないようにする。また、気温にあった格好をすることが恥ずかしいと思うことのない環境を維持する。

○事故が起きてしまったら

どんなに気を付けていても事故は起きるものであるため、起きた際の対応も部内で共有し全員が落ち着いて迅速に行動できるようにします。

＜航行不能な事故発生時の対応＞

◆　１人で練習している場合

・艇庫に連絡し指示を仰ぎ、同時に周りに人がいないか探し、助けを求める。
・道具を持ち帰ることよりも自分が帰ることを優先する。
・艇庫に連絡がつかず、周りに人がいない場合、ためらわずに１１８番へ通報する。

◆　複数人で練習している場合

練習中の部員もしくはマネージャーに状況を伝える。ほかの部員に連絡がつかない場合は、全体ラインに連絡を入れたのち、「１人で練習している場合」と同様に行動する。